





KVK 定量止水付サーモスタート式混合栓 KM150(W)〈各仕様共通〉 取扱説明書










■ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。
この取扱説明書と施工説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。
■この取扱説明書はKM150仕様のイラストで説明しています。







安全上のご注意




- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

| | | | |
|--|--|--|--|
|  この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です |  この絵表示は、「分解禁止」の内容です |  この絵表示は、「接触禁止」の内容です |  この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です |
|--|--|--|--|

やけど、漏水をした場合の処置 やけどをした場合は、すぐ、その箇所に水を流しながら冷やしてください。そして専門の医師の診察を受けてください。漏水した場合は元栓、または止水栓を開けてください。ポンプをお使いの場合は、ポンプを止めてください。そして専門の業者に修理を依頼してください。


| | | |
|---|---|---|
| <p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>85℃以上はダメ</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> | <p>加工及び接合等の改造はしないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> | <p>小さいお子様だけの使用は避けてください。</p> <p> 禁止</p> <p>やけど・けがをするおそれがあります。</p> |
| <p>分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。</p> <p> 分解禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> | <p>器具の左側は給湯側のため高温になっています。器具（金属）の表面に直接肌を触れないでください。</p> <p> 接触禁止</p> <p>やけどをするおそれがあります。</p> | <p>湯側ソケットは給湯側の為、高温になっています。高温部に直接肌を触れないようにしてください。</p> <p> 接触禁止</p> <p>やけどをするおそれがあります。</p> |
| <p>高温の湯をお使いのときには吐水口は高温になっています。直接肌を触れないでください。</p> <p> 接触禁止</p> <p>やけどをするおそれがあります。</p> | <p>湯水をお使いになる前に、必ず手で適温かどうか確かめてください。</p> <p> 注意</p> <p>確かめないと高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。</p> | <p>温度調節ハンドルの表示で湯温を確かめた後、吐水してください。</p> <p> 注意</p> <p>確かめないと高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。</p> |

| | | |
|--|--|---|
| <p>高温の湯をお使いの後は、必ず温度調節ハンドルの目盛を「40」以下に戻しておいてください。</p> <p> 注意</p> <p>次に使用する時、いきなり高温の湯を浴び、やけどをするおそれがあります。</p> | <p>高温の湯をお使いの後は、器具内に高温の湯が残らないように、しばらく水を流してください。</p> <p> 注意</p> <p>次に使用する時、器具内に滞留した高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。</p> | <p>温度調節ハンドルを急に回すと、温度が急上昇することがありますので、ハンドルはゆっくり回してください。</p> <p> 注意</p> <p>やけどをするおそれがあります。</p> |
| <p>ストレーナの清掃は止水弁又は元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。</p> <p> 注意</p> <p>ストレーナをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> | <p>寒冷地仕様の場合</p> <p>水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>水抜き栓をいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> | <p>配管などの解氷のため、解氷機をご使用の場合、水栓には絶対に通電しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> |

| | | |
|--|---|---|
| <p>器具に乗ったり、よりかかったりして無理な力を加えないでください。吐水口先端に重いものを下げたり、力をかけて回さないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>器具が破損し、けがをしたり、漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> | <p>めっき部品は、ぶついたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。</p> | <p>吐水量設定ハンドル操作の急閉止は、配管からの漏水を起こすことがありますので、ゆっくり操作してください。</p> <p> 注意</p> <p>ゆっくり操作しないと漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> |
|--|---|---|

注意

凍結が予想される際は、一般仕様をお使いの場合、水栓本体や配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

 注意

水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

●修理のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。
☎0120-474-161 ※携帯電話からは、0574-55-1191をご利用ください。

| | |
|--|---|
| <p>水栓の品番をご確認ください</p> <p>水栓に貼ってある品番シールをご確認ください。シールの左下が品番です。 [シールの貼付位置は「各部の名称」をご覧ください]</p> | <p>修理料金は技術料+部品代+出張料で構成されています</p> <p>技術料…診断・故障箇所の修理及び部品交換・調整・修理完了時の点検等の作業にかかる費用</p> <p>部品代…修理に使用した部品代</p> <p>出張料…製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用</p> |
|--|---|

●商品に関するお問い合わせはKVKお客様ご相談センターにご連絡ください。
☎0570-099-552

株式会社KVK

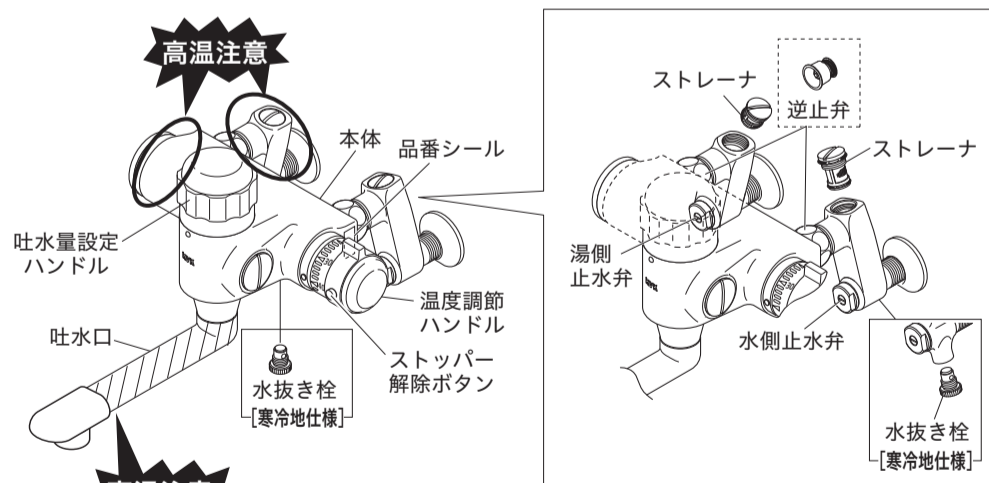
インターネットホームページ <http://www.kvk.co.jp/>

ご使用の前に / ご使用方法

給湯機の使用上のご注意

- ・給湯機の給湯温度は、必要とする吐水温度より10℃以上高くしてください。なお、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ・吐水量が多すぎる場合は、止水弁であらかじめ流量調節を行ってください。
- ・給水圧力が低い時や水温が高い時は、給湯機が着火しにくくなる場合があります。その場合は給湯機の設定温度を少し下げてください。(瞬間型の場合)

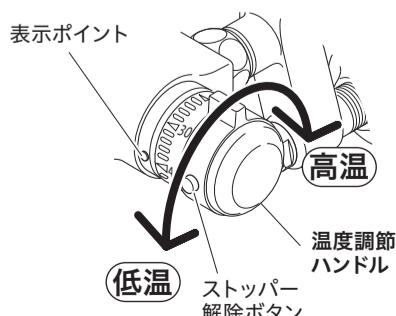
各部の名称



温度調節方法

温度調節ハンドルの目盛を表示ポイントに合わせます。目盛「40」を目安にしてください。高温に回しますと、目盛「40」を少し過ぎたところで一度温度調節ハンドルが止まります。(温度：約42～45℃)
それ以上の高温を出すときは、ストッパー解除ボタンを押しながら回してください。使用後は目盛「40」以下に戻してください。

【注意】
目盛は、温度表示ではありません。
目盛は、温度調節の目安としてください。



吐水量設定ハンドルの使用方法

吐水量設定ハンドルを左へ回すと湯水が出ます。浴槽の大きさに応じて、ハンドルの目盛(%)を表示ポイントに合わせます。(1回の最大吐水量約300%)
(例) 200%をセットする時は、ハンドルを目盛「200」に合わせてください。
ハンドルは計量しながら自動で元へ戻り止水します。計量以外で使用する場合は、目盛範囲でハンドルを回し吐水します。「OFF」に合わせ止水します。

【警告】
湯水をお使いになる前に、必ず手で適温かどうか確かめてください。確かめないと、高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

【注意】
吐水量設定ハンドルはゆっくり操作してください。急な操作はウォーターハンマー(水撃)音が発生し、漏水の原因となります。

【お願い】
100%以下をセットする時は、ハンドルを一度「100」以上回した後目盛を合わせてください。
※本品は計量機器ではありません。吐水量設定ハンドルの目盛は吐水量の目安としてください。

吐水量の固定方法

浴槽の大きさに合わせて、ストッパーガイドをあらかじめセットしておく、吐水量設定ハンドルが設定量以上回らなくなり、いつも一定の設定量で使用できますので取り付けをおすすめします。

- ① 吐水量設定ハンドルを「OFF」の位置にします。
- ② キャップ、ナット、歯付座金、座金をはずし、吐水量設定ハンドルを回転させないように取りはずします。
- ③ 同梱のストッパーガイドを設定量に応じてはめ込んでください。ストッパーピンから反時計回りの方向(本体正面に向かって)はめ込んでください。
(例) 最大吐水量を180%に設定する場合、-100%用と-20%用のストッパーガイドをはめ込んでください。
(最大吐水量 300% - 120% = 180%)

【お願い】
この時固定ガイドを動かさないようにして、ストッパーガイドが右側に寄らないよう注意してください。

④ 吐水量設定ハンドルの「OFF」を本体の表示ポイントに合わせてはめ、はずした逆の手順で組み込みます。

【お願い】
座金を入れ忘れずと、吐水量設定ハンドルが回らなくなるので、入れ忘れないようにしてください。

| | |
|---|---|
| <p>③ ストッパーガイド</p> <p>-100%用1個入</p> <p>100L</p> <p>-20%用1個入</p> <p>20L</p> | <p>180%設定例</p> <p>固定ガイド</p> <p>ストッパーピン</p> <p>-100%用ストッパーガイド</p> <p>-20%用ストッパーガイド</p> |
|---|---|

